

教育センターだより

平成26年度 第11号(2月20日発行)



鳥取県教育センター 〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201番地
TEL 0857-28-2321(代表) FAX 0857-28-8513
【URL】 <http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【E-Mail】 kyoikucenter@pref.tottori.jp

鳥取県教育センター研究発表会を実施しました

平成27年2月13日(金)、「平成26年度鳥取県教育センター研究発表会」を実施しました。当日は雪のちらつく空模様でしたが、多くの方が発表会にご来所くださいました。

発表会では、3名の長期研修生による個人研究、今年度スーパーバイザー事業に取り組みました学校の研究、教育センターと長期研修生・学校との共同研究の内容が発表されました。

発表された研究テーマ等は下表のとおりですが、それぞれの研究がたいへん内容のある、今後の県内教育の充実に資するものでした。教育センターでは、今後も研究発表会の内容がますます充実するよう努めますので、来年度も多くのご来所をお待ちしております。

	区分	研究テーマ	発表者
1	長研	小学校外国語活動における文字を使った指導を取り入れたコミュニケーション活動の工夫 ～小学校外国語活動と中学校英語科の滑らかな連携をめざして～	鳥取市立宝木小学校 教諭
2	SV	自信を持って思いを伝え合える子どもの育成 ～言語活動の充実による学力向上を目指して～	倉吉市立久米中学校区 小中学校連絡協議会
3	SV	豊かな心情を育み主体的に行動できるたくましい幼児児童生徒を育てる ～キャリア教育に視点を当てて～	鳥取県立鳥取聾学校
4	SV	「伸ばす力 育む心」～小集団を活用した学び合いの中で、生徒同士をつなぎ、個の力を育てる授業づくりの研究～	米子市立美保中学校
5	SV	生き方を考える教育の実践 ～自律し自立する生徒の育成～	鳥取市立湖東中学校
6	SV	知識構成型ジグソー法による授業デザインの改善をめざして	日南町立日南小学校・ 中学校
7	長研	自分の考えを伝え合い、高め合う児童を育てる学習指導の工夫 ～算数科における言語活動の充実を通して～	岩美町立岩美西小学校 教諭
8	SV	発達や障がい特性に応じた指導・支援の工夫 ～「感覚と運動の高次化」理論を基にした実践より～	鳥取県立皆生養護学校
9	SV	生徒の興味・関心や満足感を高めるための授業を工夫し、学力向上を目指す	智頭町立智頭中学校
10	長研	単元で扱うべき言語活動を見定め、児童が活用できるようにするための授業改善 ～言語が生きて、使える実感を持つために～	湯梨浜町立東郷小学校 教諭
11	SV	自己指導能力を高める指導の実践 ～生徒指導の三機能とESDを生かして～	三朝町立三朝中学校
12	共同	21世紀型スキルを意識した協働的な授業研究の工夫	教育センター 研修企画課
13	共同	学級集団の絆を太くする係活動への指導のあり方 ～感謝の気持ちと自己有用感の育成をめざして～	教育センター 教育相談課

※ 長研＝長期研修生個人研究、SV＝スーパーバイザー事業、共同＝教育センター共同研究

【研究発表会の様子】



開会挨拶



長期研修生



長期研修生



長期研修生



共同研究



共同研究

以下に、当日ご来所くださった方々の感想の一部を紹介します。

- せっかくなので1日出張としたかったが、他の研究会や発表会と重なっていたため学校から3～4人抜けてしまうことになり、午後のみ出張となりました。本校からも複数出席させてもらえると、より一層の校内研究推進につながったと思います。
- 3名の長研生のみなさん1年間お疲れ様でした。現場に戻ってもぜひこの実践を続けてください。この実践を続け広げていくことにより、この1年間の研修の意義がより深まることになると思います。研究が現場で担任に戻って役立ったと思えるようにしてください。これからの授業改善について大変勉強になりました。
- 勉強になりました。現場で実践して自分なりのやり方を見つけていきたいと思えます。学級経営・教科指導等様々なことを学ぶことができ、学び続ける教員としてよい機会になりました。
- アクティブラーニングのお話を非常に興味深く聞きました。各校の情報機器の整備を急いでもらいたいと感じます。
- 教育センターとの共同研究によって学校がより良くなり、とても感謝しています。また、その内容、成果についても質的・量的な考察から意味づけをいただき、現場の知を研究して引き上げていただきました。今後もこの取り組みを活かして校内研究の推進にあたっていきたいと思えます。
- 「学級集団の絆を太くする指導のあり方」の実践は、簡単に組み合わせてとても有効な方法だと感じました。実施を楽しみにしている児童の様子もあります。今後、カードに頼らず相手を認めてほめ合えるような実践につながる取り組みになるといいと感じました。
- 発表11、12に参加しました。どちらも本校の研究テーマにあるもので参考になりました。今後の研究に活かしていきたいと思えます。
- 初めての参加でした。是非来年度も参加したいです。大変勉強になりました。

平成26年度に県教育センターが実施を予定した

全ての基本研修・職務研修・専門研修を終了しました

1月29日（木）に開催した基本研修「初任者・新規採用教員研修」が、標記研修の最終講座となりました。同講座では、「これからの教師に望むこと」と題し、鳥取県小学校長会の会長である鳥取市立美保南小学校の日下部衆理校長にご講話いただきました。

日下部校長には、「子どもたちは仲間がいてこそ成長できる」「各校種の教育の目的は最終的に自力飛行のできる人を育てること」「教えるべきことは教えるべきときに教える」などのお話しを通じ、「学び続ける教師になろう」という初任の先生方への力強いメッセージをいただきました。

一人一人の子どもが成長するために必要な仲間づくりの視点、児童生徒によっては発達段階としてできないことがあっても、県内の学校全てが自立した人づくりを目標に教育活動に取り組むべきであること、教えるべきはきちんと教え、そのチャンスを逃さないことなど、示唆に富む内容が随所に溢れたお話しでした。

なかでも、勤務校で取り組んでいらっしゃる「登校した児童による下足の整頓」が朝の子どもたちの心を落ち着かせているというお話はとても印象的でした。

*

初任者・新規採用教員研修の2日前、1月27日（火）には、「2年次フォローアップ研修」も最終回を実施しました。

同講座では、「若手教員に期待すること」と題し、前倉吉市立東中学校長の石田正紀氏にご講話いただきました。

石田氏には、講師としてのご経験を経て、採用試験から教諭時代、県教育委員会事務局でのお仕事、教育次長を経て校長としてご退職に至るまでのご自身の経験を楽しく語っていただく中で、たくさんの教訓をいただきました。

例えば、生徒の保護者への一本の電話や、毎日の挨拶に二言目を添えるというような小さな心がけが大きく教員人生を変えていくことなどについて、具体例を交えながらお話しくださいました。

最後に、「教育は未来に向けた人づくりという夢とロマンにあふれた仕事である」とのご自身の言葉とともに、「教育とは、流れる水に文字を書くようなはかない仕事なんです。しかし、それをあたかも岸壁にノミで刻みつけるほどの真剣さで取り組まなければならないのです。」「教師がおのれ自身、あかあかと火を燃やさずにして、どうして生徒の心に点火できますか。教育とはそれほどに厳粛で崇高な仕事なのです。」という森信三氏の言葉を紹介くださり、教職経験2年目を終えようとしている受講の皆さんを激励していただきました。



教育センターでは現在、平成27年度の研修講座の内容をより充実したものにするよう、受講アンケートへの回答内容や「教職員研修等実施協議会」をはじめとする関係諸機関からのご意見を参考として、その企画に取り組んでいます。4月以降の教育センターの活動にご期待ください。



進化生物学者である長谷川英祐氏の著書『働かないアリに意義がある』の最終章に、氏が大学で学生に対して、「読書とは、その本には何が書いてないのかを一生懸命読み取ることである。」と教えるくだりがある。

一人の学生が氏の著書を携えてその内容について質問に来たとき、与えた答えに対して学生が「そんなことはこの本のどこにも書いてない。」と発言したことについて、やや叱責気味に発言された内容だ。

冒頭の著書には蟻や蜂など真社会性生物の生態についていくつもの興味深い記述があるが、私にとっては最終章の、読書に関するその記述が最も印象に残った。

*

そのエピソードを読んで、ある先輩教員から聞いた話を思い出した。その方は学生時代のゼミで、教授から「日ごろから古今和歌集をしっかりと読んでおくこと」という課題を出されていた。ある日、「では何番の歌を詠んでください。」と指示された別の学生が本のページを開こうとしたところ、「君、読んでおくというのは歌の番号を言われたら即座にその歌を詠じることができるまで読み込んでおくということだよ。」と叱られた場面に同席してぎょっとしたという話だ。

*

言いも言ったり、いずれの指導者も剛の者であることには違いない。おそらく多くの人の感覚だろうが、と逃げると叱られるかも知れないが、どちらの話もちょっと厳しすぎるのではないかと思わないでもない。しかしどちらの話も、深い読みという、書物を読むにあたっての覚悟とでも言うべき読書の姿勢について考えさせられる話である。

*

近年「新たな学び」という言葉をよく聞くようになった。「学びが『何を学ぶか』から『どのように学ぶか』に変化しており、その一環としての『協調的な学び』が言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成という効果をもたらす」という一つの説明があるようだ。

では、協調的な学びと読書との関連はどう考えるべきだろうか。

*

ある人が「勉強とは孤独なものだ。」と言った。そのとおりだ。人は一人になって真剣に考えたときに最も多く学ぶ、と私の古い頭はつぶやく。

先に述べた「書いてないことを読み取り」と「詠じることができるまでの読み」は一人になって集中して真剣に考えながら読まないといけないことだ。

*

時代の要請である「協調的な学び」と個別的活動である「読書による学び」について考えるとき、たどり着くのは、私たちは、一人のときはもちろん、大勢の中でも、集中するべきときには集中できる能力を持った児童生徒を育てることができる、そんな教職員集団でありたいということだ。

その能力は「新たな学び」における立派な「21世紀型の能力」だと思う。

流行の中に不易がある。

